

農業技術情報

令和4年10月15日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター
十勝東部支所 015-572-3128
JA十勝池田町 572-3131
高島支所 573-2111
池田町産業振興課 572-3118

| 作物名 | 遅速日数 | 生育状況 | 農作業状況 |
|------------------|------|---|--------------------------------------|
| 秋まき小麦 | -2 | 草丈 10.9 (10.2)cm 葉数 1.6 (2.0)枚 莖数 230 (228)本/m ² 出芽期 10/5 (10/4) | は種期 9/28 (9/26) は種終 10/3 (10/5) |
| てん菜(移植) | +2 | 根周 46.5 (42.2)cm | |
| てん菜(直播) | ±0 | 根周 35.5 (36.5)cm | |
| 大豆 | +5 | 莖長 68.3 (74.9)cm 葉数 9.2 (9.8)枚 着莢数 590.5 (547.0)個/m ² 成熟期 9/27 (10/2) | 収穫始 10/16(10/16) |
| 小豆 | - | | 収穫期 9/28 (10/7) 収穫終 10/16 (10/25) |
| 牧草 | - | | 収穫終 10/2 10/1 |
| サイレージ用 とうもろこし | - | | 収穫期 9/26 (9/26) 収穫終(10/12 10/11) |

1 秋まき小麦

今年のは種期 9/28 と平年に比べ 2 日遅く、10/15 現在の生育も 2 日遅くなっています。雪腐病の防除を徹底し越冬率の低下を防ぎましょう。

雪腐病は、連作ほ場や遅まき、深まきによる生育不良によって発生しやすくなります。以下のことを参考にし、適正防除に努めましょう。

(1) 雪腐病防除

雪腐病の種類によって薬剤の効果が異なります。過去の発生状況に応じた薬剤の選定をしましょう(表1)。

また、殺菌剤の防除効果の低下は、散布から根雪始めまでの期間の降水量が大きく影響します。この期間が長いと、その分降雨に遭う確率が上がり、防除効果が低下するリスクが高くなります。気象やほ場、散布機械の運用面などを考慮し、できる限り根雪に近い時期に散布しましょう(表2)。ただし、残効性に優れる薬剤を用いる場合は、早めの時期の防除も可能です(表3)。

表1 雪腐病の防除薬剤例

| 薬剤名 | RAC コード | 使用濃度 (倍) | 使用回数 (以内) | 使用 時期 | 紅色 雪腐病 | 黒色小粒 菌核病 | 褐色小粒 菌核病 | 大粒 菌核病 |
|--------------------|------------|-----------------|--------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-----------|
| フロンサイドSC | 29 | 1,000 | 2回 | 根 雪 前 | ● | ● | ● | ● |
| トップジンM 水和剤 | 1 | 2,000～ 2,500 | 3回 | | × | × | × | ● |
| シルバキュア フロアブル | 3 | 1,000～ 2,000 | 1回 | | × | ● | ● | × |
| バシタック ベフラン水和剤 | 7・M7 | 400 | 2回 | | ● | ● | ○ | ● |
| モンカットベフラン フロアブル | 7・M7 | 500 | 2回 | | ● | ● | ○ | ○ |

※● 北海道の指導参考である ○ 登録はあるが指導参考になっていない × 登録無し

※バシタックベフラン水和剤は展着剤の加用を推奨する

※モンカットベフランフロアブルは単剤使用の場合は展着剤を加用する必要はない

ただし、トップジンM水和剤を加用する場合は、展着剤→トップジンM水和剤→モンカットベフランフロアブルの順で混用する

表2 過去の根雪初日(帯広測候所調べ)

| 年 度 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 7年平均 |
|------|-------|------|-------|------|------|---------|---------|------|
| 根雪初日 | 11/24 | 12/6 | 11/18 | 12/6 | 12/2 | 1/7(R3) | 1/2(R4) | 12/9 |

※根雪初日は積雪が30日以上継続した場合にさかのぼって決められる。

表3 雪腐病に対する殺菌剤の残効性と防除の目安(H26 普及推進事項)

| 薬剤名 | 根雪日までの積算降水量 | |
|-------------------------|------------------------|------------------------|
| | 雪腐大粒菌核病 | 雪腐黒色小粒菌核病 |
| フロンサイドSC (1,000倍) | 120mm (日最大降水量 65mm) | 120mm (日最大降水量 65mm) |
| トップジンM水和剤 (2,000倍) | 80mm (日最大降水量 40mm) | - |
| シルバキュアフロアブル (2,000倍) | - | 100mm (日最大降水量 40mm) |

※無人ヘリコプターによる散布は検討していない。

2 豆 類

大豆の収穫はこれから最盛期です。以下の点に注意し、安全に作業を進めていきましょう。

(1) 大豆の収穫

ア 汚粒対策

青立ち株(わい化病株)や雑草(特に紫色の実をつけるイヌホオズキ)は事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場

や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を行いましょ。

イ 収穫適期

汚粒の原因に大豆の刈り取り時期も大きく影響します。子実水分が20%以下（最終は16%以下）とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を止めましょ。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。可能な限り適期収穫を心がけましょ。

※コンバイン収穫の場合、収穫適期幅は短いため、事前にコンバインの点検・整備を入念に行いましょ。熟莢率が100%となり、子実水分が20%以下となったら試し刈りを行いましょ。

3 てんさい

黒根病、根腐病の発生がみられます。下記の点に注意し収穫作業を行ってくださ。

(1) 収穫時・貯蔵時の注意点

ア 収穫時の注意

- ・根腐症状など腐敗が生じている部分は別掘りとし、腐敗混入を防ぎましょ。
- ・収穫作業は輸送計画に基づき集荷日の2～3日前には終了しましょ。
- ・タッピングの高さに注意しましょ。
- ・直播栽培では、移植栽培より根長が長くなります。収穫物の損傷状況を確認し、掘り取り深さや作業速度を調節しましょ。

イ 貯蔵時の注意

収穫したてんさいをほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、必ず防水シートなどで被覆し、腐敗・乾燥・凍結を防止しましょ。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に溝を設けるなど、排水対策も行いましょ。

ウ 収穫後の作業

てんさい収穫後の茎葉はすみやかに土中にすき込み、腐熟を促しましょ。

(2) 育苗土のpH矯正

秋のうちに育苗土のpH矯正を済ませましょ。目標pHは6.0～6.5です。これより低い場合は、粉状炭カル等の石灰資材を施用し、混和ムラによる生育障害が起きないよう、十分混和しましょ。

(3) ハウス内のアブラムシ対策(テンサイ黄化病対策)

テンサイ黄化病の病原ウイルスは、主にモモアカアブラムシが媒介します。ビニールハウス等で越冬したものが、次年度のウイルスの感染源になるので、以下のことに注意しましょ。

- ・越冬ハウス内の作物残渣や雑草を除去しましょ(特にアブラナ科やナス科)。
- ・厳寒期にハウスのビニールを除去するか、またはハウス内の側面を長時間解放しましょ。

4 土づくり

(1) 後作緑肥のすき込み

後作緑肥のすき込み時期が遅れると、緑肥が雑草化したり、すき込み後の分解が遅れ、春先の植え付けに影響します。気温・地温が確保できるうちにすき込みましょう。すき込み方法は次のア～ウがあるので、緑肥の種類や生育量によりすき込み方法を選びましょう。

ア プラウで直接すき込む

イ ストロークジョッパーで細断後に、プラウですき込む

ウ ロータリやデスクハローで表層土と混和した後、プラウですき込む

表4 主な後作緑肥のすき込み時期(北海道緑肥作物等栽培利用指針)

| 緑肥作物 | すき込み時期 | 判断の目安 | C/N比 |
|---------------|---------|-----------|-------|
| えん麦 えん麦野生種 | 10月中～下旬 | 出穂後早めに | 15～25 |
| シロカラシ | | 開花後10～20日 | 12～20 |
| ひまわり | | 開花後7～14日 | 15～20 |
| ヘアリーベッチ | | — | 10～15 |

(2) 堆肥の施用

窒素の溶脱を避けるためには、できるだけ気温が低くなってから施用し、散布後に耕起をしましょう。

(3) 土壌診断の実施

適正な肥培管理と肥料コストの低減のため、土壌診断を実施しましょう。とくにリン酸・カリの蓄積が進んでいるほ場が多い傾向にあります。

ただし、ほ場によっては不足している場合もあるので、土壌診断に基づき、適切な施肥設計を行いましょう。

<ほ場の透排水性の改善>

収穫後のほ場は、晴天が続く時期を見計らって心土破碎や広幅心土耕を行いましょう。ただし、施工時の土壌水分が効果に影響するため、なるべく「土壌が乾いたときに」「低速(時速 2 km/h以下)で」「密に」「暗きよと直交するか、少なくとも平行しないように」施工することが重要です(いずれも暗きよが効いていることが前提)。

<土の移動に注意>

収穫・耕起作業などで土壌の付着した作業機のほ場への出入りが多くなりますので、土壌病害虫の侵入に注意しましょう。

以下の土壌病害虫は数年から数十年土壌中で生き残るため、特に注意が必要です。

表5 注意すべき土壌病害虫とその対策

| 注意すべき土壌病害虫 | | 具体的対策事項 |
|------------|----------------------------------|---|
| 害虫 | ・ ジャガイモシストセンチュウ ・ ダイズシストセンチュウ | ・ 連作はしない ・ ばれいしょは野良イモ対策を実施する（雪割りなど） |
| 病害 | ・ 縞萎縮病 ・ コムギなまぐさ黒穂病 | ・ 抵抗性品種※を輪作体系に加える ・ 土の移動は極力避ける（プラウ、ロータリ、ハーベスタなどは、土を落としてから移動する） |

※抵抗性品種例

ジャガイモシストセンチュウ～とうや、キタアカリ、さやか、コナヒメ

ダイズシストセンチュウ～ユキホマレ（レース3抵抗性）、ユキシズカ（レース3抵抗性）、ユキホマレR（レース1, 3抵抗性）

5 収穫後の機械整備

機械の点検・整備は機能の維持、耐用年数の延長、安全性の確保につながります。収穫が終了した作業機は掃除・洗浄を行います。機械格納庫で長期保管する前に以下の作業を行いましょう。

- ・ 燃料を満タンにし、バッテリーを外す。バッテリーは室温で保管し、比重計で比重を確認して充電状態を保ち過放電を防止する。
- ・ 各部の点検調整を行い、さびやすいところは薄くオイルを塗り、湿気を避けて格納する。

- ・ 日没が早く、視界もすぐに悪くなります。ゆとりをもって、無理のない作業を心がけてください。
- ・ 公道を通行する場合は、早めにライトを灯火し、夜光反射板や低速車マークを装着しましょう。
- ・ 収穫機の調整や詰まり除去のときは、必ずエンジンを止めましょう。
- ・ 衣服の裾やひも等は、機械に巻き込まれる危険を高めま。身体に密着させましょう。
- ・ 機械の周辺では、声を掛け合って事故の防止に努めましょう。
- ・ ダンプトラックの荷台を上げて作業するときは、油圧を過信せず、念のためストッパーを使用しましょう。
- ・ 収穫残渣物のほ場での焼却はせず、堆肥化に努めましょう。

